

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 在宅介護する家族を支えるために

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

直近の国勢調査(2015年実施)によると、小平市の高齢者人口は42,139人、高齢化率は22.2%です。2018年の要介護等認定者は8,751人で、増加すると推計されています。国は在宅での介護を推進し、多くの人がそれを望んでいます。しかし核家族化や共働きの世帯の増加などで要介護者、介護者を取り巻く環境は厳しい状況にあります。2016年度に実施した地域包括ケア推進計画策定のためのアンケート調査で、介護者が困っていることとして介護者自身の健康に不安がある、緊急時の対応に不安がある、体力的につらい、代わりを頼める人がいない、精神的につらいと多くの人が答えています。介護者を支援することは要介護者を支援することに直結します。介護する家族が追い詰められたりすることなく、仕事も続けられるような支援が必要です。

介護する人もされる人も地域の中で自分らしく暮らし続けるために以下質問します。

- 1、地域包括ケア推進計画策定のためのアンケート調査で、介護者が困っていることとしてあげている、①介護者自身の健康に不安がある、②緊急時の対応に不安がある、③体力的につらい、④代わりを頼める人がいない、⑤精神的につらいとの答えに対し、どのように対応しますか。それぞれの現状と課題をお聞かせください。
- 2、自宅で介護する場合は特に医療と介護の連携が必要です。小平市での連携の現状と課題は。
- 3、最期まで地域で暮らすためには質量ともに充実した特別養護老人ホーム、ホームホスピスやグループホームの整備などが必要です。市としてできることは。
- 4、年間10万人いるとされる介護離職者を減らすために市としてどんなことができますか。
- 5、男性介護者は特に支援を求めることをためらい、つらさを抱え込むことが多いようです。だからこそ寄り添い方の工夫が必要だと思いますが見解は。
- 6、より良い介護のためにも介護が必要になる前からエンディングノートを書くことや高齢者対象の哲学カフェを開催することは有効と考えますが、見解は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

平成30年8月24日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【 】

26	25	24	23

-(/)